

## 見性院住職からの一言(その六、読売新聞コラム欄を読んで)

読売新聞 2018年6月10日(日)付のコラムを受けて私(見性院住職)からの一言、申し上げさせていただきます。このコラムの中で私の発言「寺院は既得権にしがみつかず、謙虚になるべきだ」と言ったことは事実でありその趣旨は今も変わっておりません。但し、近年私はわが寺の一部の旧檀信徒の態度には辟易しております。もちろん一部の人たちではあるのですがとても尊大(横柄)で困惑しております。過日も地元の旧檀信徒の数名からご意見をいただいたのですがとてもお門違いで甚だご迷惑の極みでございました。これまでお寺の世話人として一度も顔を出したこともなく何の貢献もしていないのにもかかわらずです。今や一部の檀信徒の意識は低下の一途ですので、「檀家も既得権を振りかざすことなくもっと謙虚に」とも言わせていただきたいと思います。私もおかげさまで寺院のコンサルタントを引き受けさせていただくことも多くなりましたが、よく考えてみると、檀信徒側にも少なからず問題がある場合も散見できます。ですから檀信徒側からの相談を受けても住職の味方をさせていただく場合もあります。あくまでも客観的公平性に基づいてのことではあります。結局、名士といわれるような方が不在であり、非常識極まりない人たちが仕切っているため不愉快な世の中になってしまっているのかもしれない。人心の荒廃の中で人物、人材の育成が急務です。相談役の方たちからは聞き流して無視をしていればよいとアドバイスをいただきますが全くその通りなのかもしれません。今のご住職さんたちは非常にご苦勞をされております。それを檀信徒はなかなか理解、協力をしないのは残念なことです。私はご住職たちにアドバイスをさせていただけるなら新信徒を増やしてその中から役員を選出したり、良き支援者を得ることも一案ではないかと思っております。

昨日もさいたま市でお仕事をさせていただきましたが都会(市街地)のお寺様は恵まれております。田舎寺とは雲泥の差です。私が目指すお寺は都会寺と田舎寺の間くらいが程よいのかなと思います。何もかもおせっかい焼きのいる田舎寺でも困るし、かといって自由気ままな都会寺もどうかと思います。何事もほどほどが丁度よいのかもしれない。いずれにしてもこのご時世、かつての民主党政権に一度はやらせてみたように若くてやる気のある改革派住職に檀家(信徒)も宗門もトライさせてみるのが重要です。そしてお寺は自営業であ

るということを(檀)信徒は共通認識すべきです。これを自営業の人ほど理解できないことは不思議なことです。今はお寺を選択していく時代です。自分の尊敬できる僧侶を探していけばよいのです。(人を変える前に先ずは自分が変わろう。)その上で結果を見てからの判断でも遅くはありません。若い人達には無限的な可能性があるのですから。今の安倍長期政権はかつての民主党政権による失政の上に成り立っています。そしてある一定の成果を出した場合はきちんと評価をしてあげること人としての礼儀かと思えます。

失礼千万を顧みず直言させていただきましたが裏を返せばこれは我が寺が好調の証なのかもしれません。友人いわく「あれこれ横槍が入るのは上手くいつている証拠、謙虚になりふり構わず突き進むのみ」といわれてしまいました。うべなるかな。九拝。合掌

※檀家とは当然、株主でも何でもありません。法的な権利も立場もありません。契約関係もありません。ただ慣習的なつながりだけの関係です。今日からあなたとは赤の他人ですといわれてしまえばそれで終わりになる関係です。実に脆(もろ)い関係だったのです。

(平成 30 年 6 月 11 日記)